

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年4月14日(月)、17(木)に、全国学力・学習状況調査が実施され、すでに全国や各教育委員会でのまとめが公表されております。このほど本校においても教科に関する調査(国語・数学・理科)の結果分析と改善の方向のまとめができましたので御報告いたします。

この報告様式につきましては、札幌市教育委員会の指導のもとに作成しており、具体的な数値での公表ではなく、右の表現であることをお知らせいたします。

全国平均と比べ

- +3.1ポイント以上 ⇒ ◎ 「上回っている」
- 全国平均～+3ポイント ⇒ ○ ほぼ同程度であるが、「やや上回る」
- 全国平均と同じ ⇒ □ 「ほぼ同程度」
- 3ポイント～全国平均 ⇒ ▽ ほぼ同程度であるが、「やや下回る」
- 3.1ポイント以下 ⇒ ▼ 「下回っている」

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中学校 国語	・知識および技能 [言葉の特徴や使い方に関する事項] ▽全国平均に比べやや下回っている。 ・思考力、判断力、表現力等 [話すこと・聞くこと] ▽全国平均に比べやや下回っている。 [書くこと] ○全国平均に比べやや上回っている。 [読むこと] □全国平均とほぼ同程度。	●事象や行為を表す語について理解すること ●資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝えるように表現の工夫をすること ●表現の効果について、根拠を明確にして考えること	○言葉のもつ多様な意味や機能に注意を向け、効果的に使えるようにする活動の充実 ○ICT等を活用し、相手に伝わりやすい表現の工夫について互いに助言しあう活動の充実 ○文章の表現の仕方について観点を明確にした上で評価し、意見を交流する活動の充実

【生徒質問紙調査結果の概要(国語に関すること)】

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問は全国平均を上回っていて、将来を見据え前向きに学習に取り組んでいる傾向が見られます。ただ、授業の中で身に付けた知識や技能を、他の場面で上手く活用しきれていない傾向が見られます。今後は、身に付けた知識や技能を、授業以外での場面でどのように生かしていくかを想定させるなど、授業内容を精選していきたいと思います。

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中学校数学	[数と式] ○全国平均に比べ上回っている。 [図形] ▽全国平均に比べやや下回っている。 [関数] ○全国平均に比べやや上回っている。 [データの活用] ○全国平均に比べやや上回っている。	●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること ●図形の性質について、数学的、論理的に捉え、与えられた条件を基に筋道を立てて考察し、説明すること	○日常生活において、関数が用いられている事項を調べたり、既習事項を用いて課題を数学的に捉えたり、解決したりする活動の充実 ○既習事項をもとに、図形の性質について新たな性質を見出し、その条件を考察したり、説明したりする活動の充実

【生徒質問紙調査結果の概要（数学に関すること）】

「数学の勉強が好きですか」「数学の授業の内容はよくわかりますか」という質問について、肯定的な回答の割合が全国平均を下回っています。本校の生徒は、授業に前向きに取り組んでおり、どの分野も基礎的な知識・技能は身に付いている傾向にあります。それに自信をもていないことが考えられます。今後は、授業の中で「できた!」「わかった!」と思える成功体験を増やし、「次も粘り強く頑張ったらできるかも」と自分に期待感をもたせられるような取組を増やしていきたいと思います。

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中学校理科	[エネルギー]を柱とする領域 □全国平均とほぼ同程度 [粒子]を柱とする領域 □全国平均とほぼ同程度 [生命]を柱とする領域 □全国平均とほぼ同程度 [地球]を柱とする領域 □全国平均とほぼ同程度	●回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いていること ●元素記号や化学式を正しく書けること	○実験を通して得た結果に規則性を見出し、身に付ける活動の充実 ○粒子をモデルにして可視化するなどして、化学変化の法則を捉えやすくしたり、化学式の表記のきまりを考えて表現したりする活動の充実

【生徒質問紙調査結果の概要（理科に関すること）】

「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」「理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか」という質問について、肯定的な回答の割合が全国平均を下回っています。観察や実験など、探究による知識の獲得だけでなく、知識を活用する活動を行ったり、自然の中や日常生活、科学技術の中に理を見いだす取組を増やしていきたいと思います。

【生徒質問紙調査における生活調査等の結果について】

- ◆「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目が全国平均を大きく下回りました。学習面では個に応じた「わかる」「できる」「楽しい」という体験の積み重ねを強化していきます。学校生活や学校行事においては、生徒一人ひとりの声に耳を傾けながら、互いに尊重し、互いに認め合う場をつくり、生徒の「学校に行く足どりは軽い」という状況をつくることに努めます。
- ◆「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の項目が全国平均を大きく下回りました。各教科、特に道徳の授業を通して、自分と違う意見を受容し、発展的な考えを促す取り組みを行います。
- ◆「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、一日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT 機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」の項目が全国平均を上回りました。タブレットを活用して学習課題や疑問点を自分で解決しようとする習慣を、今後も育てていきます。
- ◆「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」の項目が全国平均を大きく下回りました。どのように工夫したら、より効果的に物事を進めたり、相手に伝えることができるかを考えさせる取組を行います。
- ◆「新聞を読んでいますか」の項目と「読書は好きですか」の項目が全国平均を上回りました。毎日の朝読書を通じて、引き続き読書する習慣を育てていきます。
- ◆「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目が全国平均を大きく下回りました。来年度発足するCS（コミュニティ・スクール：学校運営協議会制度）を通じて、地域と共に何ができるかを模索していきます。

※CS（コミュニティ・スクール：学校運営協議会制度）…学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。（文部科学省HPより）

- ◆「1、2 年生でのタブレット端末活用の程度」の項目が全国平均を大きく下回りました。一方で、「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」等のタブレット端末の活用力に関する4つの項目は、全国平均とほぼ同程度でした。タブレット端末の効果的な活用を、引き続き適切に行い、効率よく活用する力を伸ばしていきます。

（教科）

- ◆国語科では、「国語の勉強は得意ですか」の項目と、「国語の勉強は好きですか」の項目が、ともに全国平均を大きく上回りました。今後も日々の学習を通じて、生徒の学ぶ意欲を育てていきます。
- ◆理科では、「理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか」の項目と、「理科の授業で、課題について観察や実験をしていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか」の項目が全国平均を大きく上回りました。引き続き、日々の学習を通じて、課題を見つけて探究する力を育てていきます。